

第165回エイズ動向委員会 委員長コメント 《R7年 第1・2四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の2四半期
○ 令和7年第1四半期…令和6年12月30日～令和7年3月30日
以下 (R7Q1)、前年同四半期を (R6Q1)

○ 令和7年第2四半期…令和7年3月31日～令和7年6月29日
以下 (R7Q2)、前年同四半期を (R6Q2)
2. 新規HIV感染者報告数は (R7Q1) 148件 (R7Q2) 156件
(R6Q1) 158件 (R6Q2) 166件
3. 新規エイズ患者報告数は (R7Q1) 52件 (R7Q2) 67件
(R6Q1) 82件 (R6Q2) 92件
4. HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は
(R7Q1) 200件 (R7Q2) 223件
(R6Q1) 240件 (R6Q2) 258件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
○ 同性間性的接触によるものが (R7Q1) 93件 (R7Q2) 98件
(新規HIV感染者報告数の (R7Q1) 約63% (R7Q2) 約63%)

○ 異性間性的接触によるものが (R7Q1) 24件 (R7Q2) 17件
(新規HIV感染者報告数の (R7Q1) 約16% (R7Q2) 約11%)
そのうち (R7Q1) 男性15件：女性9件
(R7Q2) 男性13件：女性4件

○ 静注薬物によるものは (R7Q1) 0件 (R7Q2) 0件
○ 母子感染によるものは (R7Q1) 0件 (R7Q2) 1件
○ 年齢別では、20～30歳代が多い。
2. 新規エイズ患者：
○ 同性間性的接触によるものが (R7Q1) 27件 (R7Q2) 35件
(新規エイズ患者報告数の (R7Q1) 約52% (R7Q2) 約52%)

○ 異性間性的接触によるものが (R7Q1) 8件 (R7Q2) 14件
(新規エイズ患者報告数の (R7Q1) 約15% (R7Q2) 約21%)
そのうち (R7Q1) は男性 7件：女性1件
(R7Q2) は男性 11件：女性3件

- 静注薬物によるものは (R7Q1) 0 件 (R7Q2) 0 件
- 母子感染によるものは (R7Q1) 0 件 (R7Q2) 0 件
- 年齢別では、30～50 歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和7年1月～6月）】

1. 保健所等における H I V抗体検査件数は
(R7Q1) 26,498 件 (R7Q2) 26,881 件
 （前年同四半期 (R6Q1) 24,165 件 (R6Q2) 27,560 件）

＜上記 内訳＞

保健所等（直営実施）における H I V抗体検査件数は
(R7Q1) 16,648 件 (R7Q2) 17,000 件

自治体実施の保健所等以外（委託実施）の検査件数は
(R7Q1) 9,850 件 (R7Q2) 9,881 件

2. 保健所等における 相談件数は (R7Q1) 17,479 件 (R7Q2) 18,088 件
 （前年同四半期 (R6Q1) 19,295 件 (R6Q2) 21,477 件）

【献血の概況（速報値：令和7年1月～6月）】

1. 献血件数は 2,466,402 件
2. そのうち H I V抗体・核酸増幅検査陽性件数は 7 件
10 万件当たりの陽性件数は 0.284 件

【まとめ】

令和7年第1・2四半期においては、検査件数はおおむね横ばいだが、H I V感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は減少している。これまでの新型コロナウイルス感染症流行の影響により減少していた検査件数が回復傾向に見えるが、患者数の報告の遅れ等もあり、今後の動向を見守る必要がある。

1. 新規H I V感染者報告数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（－約6%）はわずかに減少、第2四半期（－約6%）はわずかに減少した。新規エイズ患者報告数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（－約37%）は減少、第2四半期（－約27%）は減少した。
2. 新規H I V感染者報告数は20～30歳代、新規エイズ患者は30～50歳代の報告数が多く、これまでの傾向と同様である。
3. 保健所等における H I V抗体検査件数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（＋約10%）は増加、第2四半期（－約2%）はおおむね横ばいである。
 保健所等における 相談件数は、前年同四半期に比べ、第1四半期（－約9%）はわずかに減少、第2四半期（－約16%）は減少した。

4. 新型コロナウイルス感染症流行の影響により減少したと考えられる令和2、3年の保健所等での検査件数は、令和4年から増加に転じたが、令和6年から伸びが鈍化し、令和7年第1四半期、第2四半期も同様に推移している。新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準にはまだ達していないこともあり、検査件数の更なる増加が必要だと考えられるが、検査件数の解釈については詳細な検討が必要である。
5. 新規HIV感染者報告数について、わずかに減少したが、保健所等での検査件数の伸びが鈍化していることが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
6. 新規エイズ患者報告数について、前年同四半期と比べると減少したが、令和6年の新規エイズ患者報告数は、新型コロナウイルス感染症の流行等により保健所等でのHIV検査件数が減少していたことにより、エイズを発症するまで診断を受けていなかった患者が増えていた可能性があるため、今後の状況を注視していく必要がある。
7. 早期診断は、個人においては早期治療の開始、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、HIV感染リスクのある方は、今後も保健所等における無料・匿名の検査・相談を積極的に利用していただきたい。

第165回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和6年 HIV感染者・エイズ患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和6年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、662件（過去20年間で、2番目に少ない報告数）
3. 新規エイズ患者報告数は、332件（過去20年間で、4番目に少ない報告数）
4. HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は994件
（過去20年間で、3番目に少ない報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが417件（全新規HIV感染者報告数の約63%）
 - 異性間性的接触によるものが106件（全新規HIV感染者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、20～30歳代が多い。
2. **新規エイズ患者：**
 - 同性間性的接触によるものが170件（全新規エイズ患者報告数の約51%）
 - 異性間性的接触によるものが54件（全新規エイズ患者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は108,988件
（過去20年間で、6番目に少ない件数）
2. 保健所等における相談件数は84,144件
（過去20年間で、4番目に少ない件数）

《まとめ》

1. 令和6年の新規HIV感染者報告数は、令和5年と比べおおむね横ばい（－約1%）であるが、保健所等での検査件数の伸びが鈍化していることが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 令和6年の新規エイズ患者報告数は、令和5年と比べ増加（＋約14%）し、令和4年より2年連続で増加となった。これは、新型コロナウイルス感染症の流行等により保健所等でのHIV検査件数が減少していたことにより、エイズを発症するまで診断を受けていなかった患者が増えていることと、外国国籍のエイズ患者報告数の増加による可能性があるが、そのトレンドが変わってきている可能性も疑われるため、今後の状況を注視していく必要がある。そのため、新規報告数全体に占めるエイズ患者報告数の割合は33.4%と過去20年間で最も高い割合となっている。

3. 新規H I V感染者の感染経路は、性的接触によるものが約 79%（うち約 80%が同性間）、新規エイズ患者では約 67%（うち約 76%が同性間）となっている。また、新規H I V感染者・新規エイズ患者ともに、男性が全体の 9 割を超えている。
4. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、前年に比べおおむね横ばい（+約 3%）である。新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準にはまだ達していないこともあり、検査件数の更なる増加が必要だと考えられるが、検査件数の解釈については詳細な検討が必要である。保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮したH I V検査相談体制を推進していただきたい。
5. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における 10 万件当たりの陽性件数は令和 5 年と比べて増加した。近年と比較し件数が多いわけではないが、今後の状況を注視していく必要がある。なお、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
6. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、エイズ発症予防のためには、早期診断と早期治療が重要である。感染予防と早期診断は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。